

ヒラリー2.0の始動

米大統領選挙、陰の主役はオバマ大統領

欧米調査部 部長

安井明彦

03-3591-1307

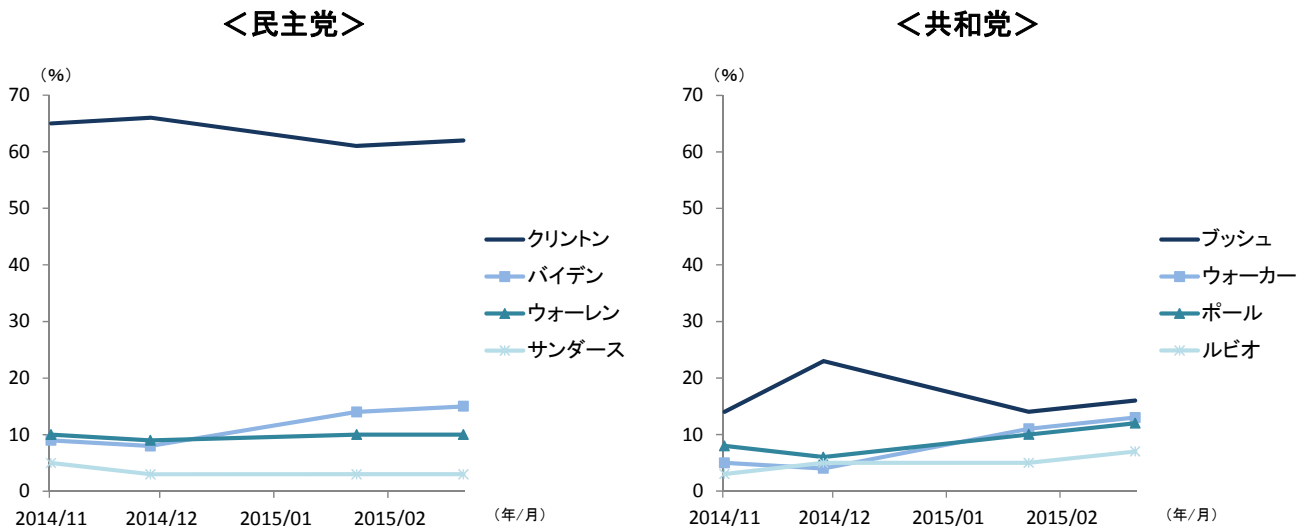
akihiko.yasui@mizuho-ri.co.jp

- ヒラリー・クリントン前国務長官が、2016年大統領選挙への出馬を正式に表明した。二度目となる民主党の指名候補争いでは、圧倒的な支持を集めている
- もっとも、本選挙は予断を許さない。米国の大統領選挙で同一政党が三連勝するのは容易ではない。クリントン前長官は、有権者に「変化」を期待させられるか否かが問われる
- 見逃せないのは、同じ民主党に属するオバマ大統領のこれからの業績である。オバマ大統領の支持率や選挙年の経済成長率は、初の女性大統領誕生を占う重要な要素である

1. 現時点では圧倒的な強さ

2015年4月12日、米国のヒラリー・クリントン前国務長官が、2016年大統領選挙への出馬を正式に表明した。民主党の指名候補を選ぶ予備選挙でバラク・オバマ現大統領に敗れた2008年の大統領選挙に続き、初の女性大統領を目指す二度目の挑戦が本格化する。

図表1 各党候補者の支持率



(注) 出馬の意向を示していない政治家を含む。

(資料) CNN/ORC調査より、みずほ総合研究所作成。

クリントン前長官は、民主党の指名候補争いにおいて、圧倒的な支持を集めている（図表1）。CNNの世論調査では、一貫して60%を上回る支持率を維持しており、他を寄せ付けない強さをみせている。現職の副大統領であるジョー・バイデン氏や、民主党内リベラル派からの人気が高いエリザベス・ウォーレン上院議員等、有力な対抗馬になり得る政治家が軒並み出馬をためらっていることもあり、クリントン前長官の強さが際立っている。

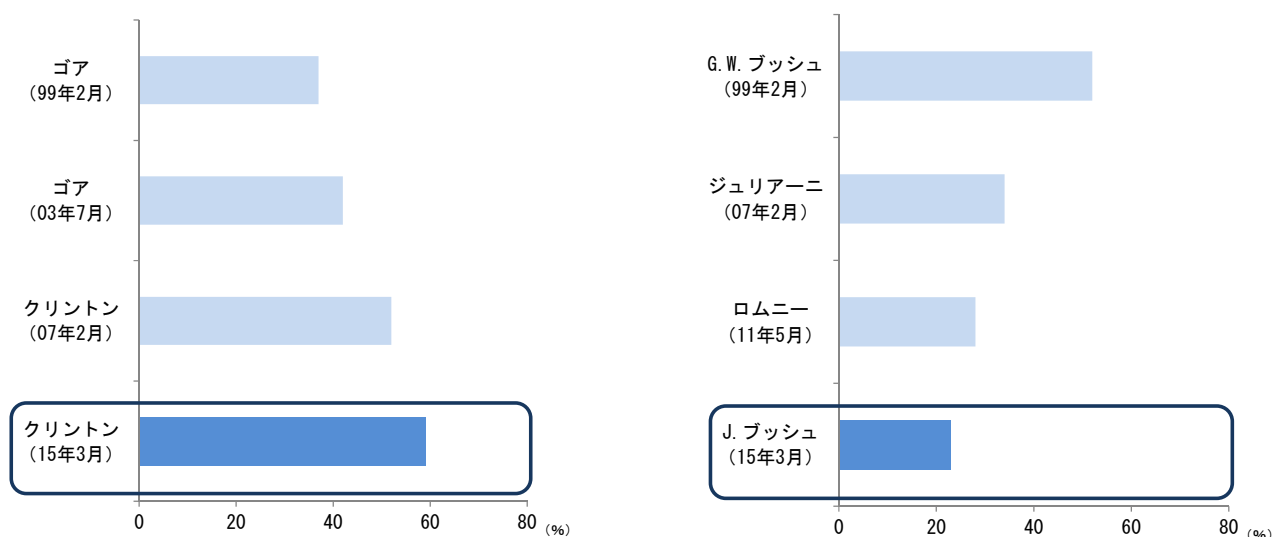
クリントン前長官が独走する民主党の予備選挙は、圧倒的な支持を集める候補者が存在せず、混戦状態となっている共和党とは対照的である。共和党の指名候補争いでは、父・兄に続く大統領を目指すジェブ・ブッシュ前フロリダ州知事が、有力候補と目されている。しかし現時点での支持率を見る限り、ブッシュ前知事が抜け出しているわけではない。ウィスコンシン州知事のスコット・ウォーカー氏やランド・ポール上院議員、マルコ・ルビオ上院議員等を含んだ複数の候補が、僅差で競り合っている。

過去の予備選挙との比較でも、クリントン前長官の強さは指摘できる（図表2）¹。2008年の大統領選挙に向けた民主党の予備選挙では、序盤でリードしていたクリントン前長官が、まさかの逆転で指名獲得を逃した。当時の自身を含めた過去の民主党トップ候補と比較しても、現時点でのクリントン前長官の支持率は高い。やはり対照的な状況にあるのが共和党であり、これまでのトップ候補と比較しても、ブッシュ前知事は遅れを取っている。ここでも目立つのは、クリントン前長官の強さである。

図表2 予備選挙序盤における各党トップ候補者の支持率

<民主党>

<共和党>



(注) 各候補の「名前を聞いたことがある」とした回答者のうち、投票する可能性を「Good Chance」とした割合。調査時点において、各党でもっとも支持率が高かった候補。カッコ内は調査月。
 (資料) Pew Research Center (2015) により作成。

2. 本選挙は予断を許さない

このように、現時点では圧倒的な強さをみせているクリントン前長官だが、2016年11月8日に投票が行われる本選挙の行方は予断を許さない。米国では二大政党の勢力が拮抗している。実際の本選挙は、接戦となる可能性が高い。

米国には、クリントン前長官にとって不吉な歴史がある。同一政党が大統領選挙で三連勝した事例は、極めて少ないのである。

米国では大統領の三選が認められておらず、同一政党による三連勝とは、再選を果たした大統領を、同一政党の候補者が継ぐケースとなる。再選を果たしたオバマ大統領に続き、同じ民主党に属するクリントン前長官が大統領選挙に勝てば、民主党の三連勝となる。

1950年以降の大統領選挙で同一政党が三連勝した例は、1980年のロナルド・レーガン大統領に始まる共和党の事例しかない（図表3）。クリントン前長官の夫であるビル・クリントン大統領を当時のアル・ゴア副大統領が継ごうとした2000年の選挙を含め、三連勝を目指した政党の戦績は1勝5敗である。

米国では、現職大統領が再選を目指す場合には、その実績がアドバンテージになる傾向がある。ところが、再選を果たした大統領を同一政党の候補が継ごうとすると、今度は前任の存在が不利に働き易い。選挙予測に定評があるエモリー大学のアラン・アブラモウィッツ教授によれば、再選を目指した大統領と比較すると、再選を果たした大統領を継ごうとした同一政党の候補には、本選挙の得票率で4.4%ptのディスアドバンテージがあるという²。

図表3 大統領選挙の勝利政党

大統領（第一期当選年）	第一期	第二期	第三期
アイゼンハワー（1952年）	共	共	民
ケネディ（1960年）	民	民	共
ニクソン（1968年）	共	共	民
レーガン（1980年）	共	共	共
クリントン（1992年）	民	民	共
ブッシュ（2000年）	共	共	民
オバマ（2008年）	民	民	??

（資料）各種資料により作成。

三連勝の障害となるのは、「変化」を好む有権者の存在だろう。今回の大統領選挙でも、世論調査では「経験」よりも「変化」を求める声が強い。ウォール・ストリート・ジャーナル紙が2015年3月1～5日に実施した世論調査では、「経験が乏しくても、大きな変化をもたらせる候補」を望む回答(59%)が、「変化をもたらさなくても、経験が豊富な候補」が望ましいとする割合(38%)を上回っている。

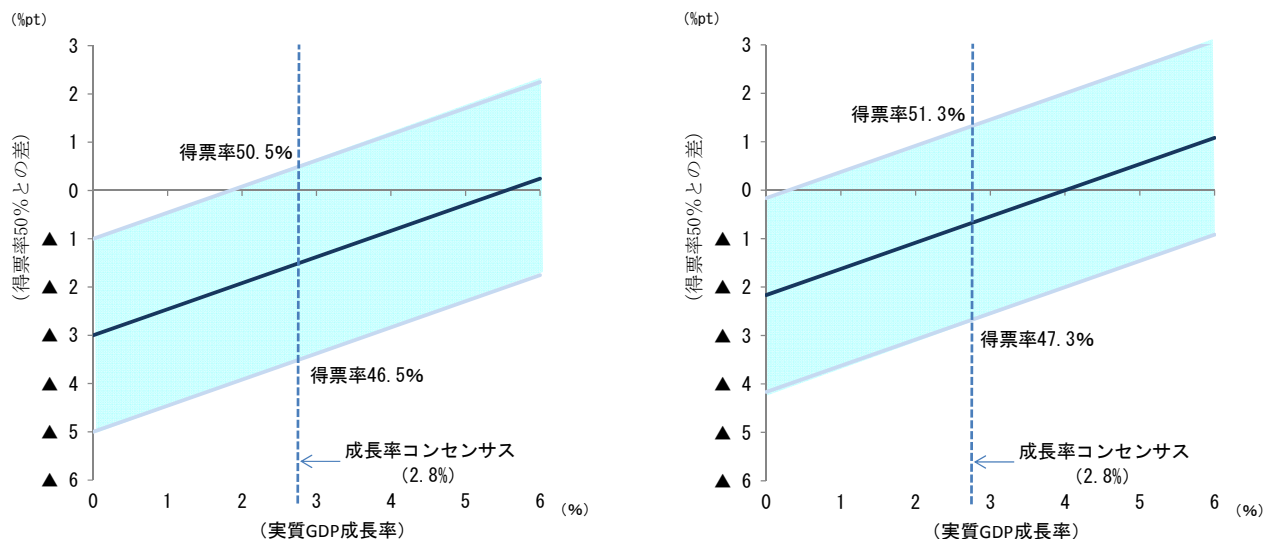
前者を好む割合は、「Change」を掲げたオバマ大統領が旋風を巻き起こした2008年よりも大きい。

「変化」を求める有権者の声は、クリントン前長官にとって問題含みである。民主党の三連勝を目指すだけでなく、自らの長い政治経歴や、再選を果たしたビル・クリントン元大統領の記憶があるからだ。クリントン前長官にとっては幸いなことに、現在の世論調査では、共和党の有力候補であるブッシュ前知事の方が、「過去を象徴する候補」と見られる度合いが強い。今後の選挙戦でも、有権者に「変化」を期待させられるか否かが問われよう。

3. 陰の主役はオバマ大統領

見逃せないのが、オバマ大統領のこれからの業績である。前述のアブラモウィッツ教授による予測モデルによれば、現職大統領が属する政党の候補者が本選挙で得る得票率は、主に現職大統領の支持率と選挙年の実質GDP成長率によって推測できる(図表4) 3。オバマ大統領の支持率が上がれば、民主党候補にとっては追い風になり易い。経済成長の加速にも、同様の効果が見込まれる。

図表4 民主党候補の得票率試算(オバマ大統領支持率別)
 <現状維持ケース> <支持率上昇ケース>



(注) Time for Change Model (Abramowitz (2012)) による試算。網掛けは誤差を含んだ試算結果(得票率)の幅。
 投票年6月末時点のオバマ大統領のネット支持率(支持率-不支持)が、現状維持ケースでは▲3.0%pt(2015年3月平均)、支持率上昇ケースでは5%ptと仮定。
 実質GDP成長率は投票年の第2四半期。コンセンサスは2015年3月時点(Blue Chip)。
 (資料) Abramowitz (2012) 等により作成。

それだけでなくクリントン前長官は、国務長官としてオバマ政権の一員だった経緯がある。オバマ大統領の「遺産」との距離感は、クリントン前長官にとって宝にもなれば重荷にもなる。同一政党三連勝の難しさを鑑みても、オバマ大統領こそが2016年大統領選挙の陰の主役なのかもしれない。

¹ Pew Research Center (2015) , Campaign 2016: Modest Interest, High Stakes, April 2

² Abramowitz, Alan (2012) , Forecasting in a Polarized Era, October

³ この他には、前述のように、現職大統領が再選を目指す選挙であるか否か等が変数となる。